

令和四年度 奈良県知事賞

税金について

桜井市立桜井中学校 三年 龍 衣咲

正直私は税金に対してあまり良いイメージがありませんでした。せっかくもらったお小遣いを友達と遊びに行ってランチをしたり、お気に入りの洋服を買ったりする時に私達のような中学生でも税金を商品の値段に上乗せして支払わなければなりません。それが消費税です。

現在、消費税は十パーセント、ただし酒類を除く飲食料品や新聞などが八パーセントの軽減税率と設定されています。

中学生である私達、収入を得ていない学生が税金を支払わなくてはならないのはどうしても納得できない事です。そう考えるのは私だけではなく、大人にもたくさんいると思います。実際、税金を支払わない、ごまかすといった脱税をする人が後を絶たない様です。

しかし、税金は国民が安心して暮らすために絶対に必要なものであり、それを受ける事によって有難さを感じる事がありました。

私は現在中学三年生です。ちょうど小学生から中学生になる時にコロナが私の生活を変えました。日本国民は緊急事態宣言を受け、普段の生活が当たり前のように送れず不安な日々を送っていました。何度も学年・学級閉鎖と長期休暇をくり返す中、学校から一人一台のノートパソコンが支給されました。学校でできない授業、担任の先生とのやり取り、課題の提出等、本当に役に立ちました。与えていただいたノートパソコンの費用は税金であるという事です。ノートパソコンだけではなく、学校のあちらこちらに設置されているアルコール消毒液・二酸化炭素濃度計も税金によって設置されています。

そう言えば、国民一人につき十万円の特別給付金も税金から支給されたものです。私の知り合いの家族も飲食店を経営しており、コロナ渦の影響を受け生活にも困った時に特別給付金はとても助かったと聞いています。コロナ渦はもううんざりですが、コロナ渦によって税金の大切さ、有難さを身近に感じる事ができた様に思います。

これらの事から、税金はいざというときに国民一人一人を助けてくれる、いわゆる「貯金」ではないかと思います。そう考えると税金に対する不満や負担を感じる事がほんの少し軽減される気がします。

近年、地球温暖化で起こる異常気象による災害、東日本大震災の様ないつ起きるかわからない大地震、憲法で戦争放棄と定められていても、他国の情勢により影響を受ける可能性など、日本国の最悪の事態を考えると国民一人一人の納税が国を救うための最低限の義務だと私は思います。そして、すべての国民が納得の納税をするためにも大切に利用し、日本の未来のために役立てていただきたいと願います。